

批判的思考力を育成する歴史教科書

— 帝国書院版『社会科中学生の歴史』を例に —

土屋 武志 (社会科教育講座)

土屋 敦子 (非常勤講師)

A history textbook for critical thinking

The published by Teikoku Shoin “History of the social studies junior high student” for an example

Takeshi TSUCHIYA (Aichi University of Education)

Atsuko TSUCHIYA (Aichi University of Education)

要約 日本では社会科歴史教科書の改善が進められている。それは、情報活用学習として思考力を育成するための改善である。同時に、学習者が歴史を解釈する活動を助けている。歴史学習は、過去の情報の活用力と異なる立場の対話力であるが、その活動を保証する教科書が評価される傾向にある。

Keywords : 社会科 歴史学習 教科書 批判的思考力 情報活用

1. 問題の所在

社会科の教科書に書いてあることは、社会の一面にすぎない。教科書が違えば違う写真が掲載され、違う視点から内容が書かれていることが多い。だから、教科書採択のときは、いくつかの教科書を比べて、メリット・デメリットを比較する。しかし、生徒にとっては、教科書は1種類なので、教科書同士を比べることはない。教科書が絶対の情報源となって、そこに書かれていることを全部学ぶことが必要だと思われ、それ以外の情報は、学ぶ必要のない情報として処理されがちである。

そのような立場にある教科書も、学習者に批判的思考力を育てるよう改善されつつある。それは、情報活用力を育てるための工夫として、作業学習としての要素を取り入れて改善されている。日本における事例を取り上げ、特色を考察する。

2. 重視される情報活用力

別添の資料1は、現在、日本の中学校で用いられている社会科教科書の一部である。日本の小中学校の場合、文部科学省の検定を受け、合格した教科書から、市町村の教育委員会などが地域単位で選んでいる。したがって、複数の教科書がある。この教科書は、最も普及しているものではないが、近年、特に発行部数を伸ばしている教科書として注目される教科書である*1。別添資料は、この教科書の特色として評価されている部分である。

このページは、教科書を使う生徒が、過去にタイムスリップしたという設定でつくられている。このペー

ジを使っておこなわれる学習活動には、次の4つの活動がある。

(1) 生徒の関心や意欲を高める活動

① なぞを発見する活動

- この絵の中でいちばん不思議な場面はどこですか？
- この絵の中でもっともなぞの人物は誰ですか？
- この絵の中の世界ではどんな声や音がきこえるでしょうか？

このように、このイラストの中から「謎」を探し出す活動。

② なぞを深める活動

- あなたが見つけた不思議な場面は何をしているところだと思いますか？
- なぞの人物の服装や様子は他の人と違いますか？
- どんな声や音がきこえるかノートに書き出してみよう。
- なぜそれが「なぞ」なのかその理由を整理して、「なぞ」を深めよう。

このように生徒の小さな気づきや発見を引き出し、その気づきや発見を整理させることで「関心・意欲」を育てる活動。

(2) 思考・判断の力を高める活動

① 現代と比較する活動

- この絵の中でいまでもっとも違うところはどこでしょう？
- この絵の場面にタイムトラベルしたら、あなたはこの中の誰に何を聞きますか？
- この絵の場面（もしくは時代）から現代に一つだけ持ち帰ることを許されたら何を選びますか？

このように、過去と現代を比較させることで思考力を高める活動。

② 順位付けの活動

- あなたの考え（予想）のなかで、最も重視する考えは何ですか？
- その理由のうち何が最も重要な理由ですか？
このように、ランキングづける活動。

(3) 資料活用・表現の力を高める活動

① 発見する活動

- この絵の中で前に学習した時代と似たところはどこですか？
- この絵の中に教科書〇〇ページにある資料と似た人物やモノをさがそう。
- この絵の場面にタイムスリップしたらどんな臭いや音がするでしょう？絵の中からその理由をさがそう。
このように、資料を観察し、ある情報にもとづいて資料から必要な情報をよみ取らせる活動。

② 分類する活動

- この絵の中の場面进行分类してみよう。
- この絵の中で立場の違う人たちが描かれているとすればいくつの立場がありますか？
- この絵の中から次のことを考えるヒントをさがそう（重複してもよいいくつでもよい）。たとえばこの時代の食料事情・エネルギー・医療や衛生状況・運搬や流通・商業・身分やしきたり・国際関係・学問や教育・娯楽・信仰や宗教・描かれている季節などから複数選ぶ。

このように、ある視点（基準）から資料を観察し分類する活動

③ わかりやすく表現する活動

- テーマを考えて絵の中の描かれている人物にせりふをつけてみよう。（ある事件について等具体的にテーマを指示してもよい）
- タイムトラベラーとして見出しを考え、この絵の様子をいまの人に伝える新聞記事を書いてみよう。
- 歴史家として、タイムスリップしたこの絵の時代のこの場所からテレビ中継をしたらどんな報告やコメントをしますか。1分間スピーチをやってみよう。
このように、このページを使って表現力を高める活動。

(4) 知識・理解を確実にする活動

① キーワードを使う活動

- この絵の中の人やモノに歴史的な用語を記入してみよう。
- 歴史用語を使って、この絵の簡単な説明を書き、伝言ゲームをしよう。
- この絵にタイトルを付け、そのタイトルに即してこの時代を説明しよう（教科書にある事件や人物など具体的な例を用いて説明する）。
このように歴史用語を正確に用いる活動。

② 当時の社会的立場にたって説明する活動

- この絵の中の誰かの立場に立って、その人物に代わって現代の人々に手紙を書こう。そのさい、その人物がそのように話す理由を考えてあなた自身の解説を付け加えよう。
- この絵の中のある人物にこの場所を案内してもらったら、その人はどんな説明をするでしょうか。立場の違う人物を何人か選んで、それぞれの立場から案内のセリフを書いてみよう。
- 現代のあなたの視点でこの絵を見たとき、最も大きな社会問題と考えられる場面はどの場面ですか。当時それが解決されなかった理由を説明しよう。
このように、現代とは違った過去の立場に立って考える活動。

この活動により、現代の特徴が理解できる。たとえば、過去の身分制度などよい例である。民主的な社会関係の特徴を理解するため、現代と違う過去の思考や常識に気づかせる活動は重要である。

以上のような教科書の使い方は、教科書を一つの情報源として、そこから情報を読み取り、解釈する活動である。このように、情報活用力を育てる教科書が評価されつつある。

3. 基本的なコミュニケーショントレーニングと発展的な学習活動

(1) 情報活用型授業における民主的能力の育成

前に述べた学習活動は、討論などの生徒同士の意見交換が中心的な学習活動になる。このような活動の場合、生徒の発言が少ない場合がある。それは、生徒が「正解」が一つと思いこんで、それと異なる答えを発言できないことが原因と考えられる。この場合、教師は、他者と違う自分自身の答えが大切だというメッセージを伝えるようにする。たとえば、「他の人やグループからは出ない考えを言ってごらん」という一言は効果的な助言である。また、どのようなはずれな意見であっても無視せずに「いまの意見どうですか」と他の生徒に意見を求めたり、「もう少し説明してごらん」など再度説明する機会を与えることも効果的と考えられ実践されている。

それでも、生徒たちが自由に発言できないようなときは、クラス全員の前で意見を表明させるのではなく、となりどうしのペアで相互にあるいは4～5人程度の少人数グループの中で順番に発表させるなど、発言しやすい環境をつくる。グループ内での発表の中から「他と違う意見」をクラス全体で発表するように促すと、多様な意見が出る。多様な意見が出たらそれらの意見の優先順位や根拠を考えさせ、互いに討論させるなど学習活動の次のステップに移行する。

このように、教科書を情報源として、それを活用する授業は、生徒同士のコミュニケーション能力を基礎的な能力として育てる役割もある。

生徒同士のコミュニケーションは、日本の社会科歴史学習で重視される。つまり、過去を解釈する権利は、一人の独裁者や特権階級の権利でなく、市民一人一人の権利である。だからこそ、異なる歴史解釈があることを前提にして、人々が、対話（＝討論）する民主的な手続きが必要になる。そのとき、感情でなく、情報にもとづいて対話する、少数意見を尊重するといった理性的かつ民主的なプロセスが必要になる。歴史学習において、あえて、異なる複数の解釈を提案させ、それらの共通点や相違点を明らかにする学習は、民主的な市民の基礎トレーニングになると考えられている*2。

以上のように、歴史学習は、一言で言うと、過去の情報の活用力と異なる立場の対話力である。その活動を保証する教科書が評価される傾向にある。

（2）発展的な情報活用学習

タイムスリップのページで描かれている場面には限界がある。日本列島には多様な歴史が展開していた。また、時代の変化を大きくとらえることも大切である。そのような学習に発展させるためにたとえば次のような発問が考えられる。

- この絵の外に絵を付け足すとすればあなたはどのような場面を付け加えますか？
- この絵の中に描かれていない人物を付け足すとすればどのような人物を付け加えますか？
- あなたがこの時代にタイムトラベルして、この絵の場面とは違う場所を旅をするならどこに行きたいですか？理由を考えたりどんな様子か予想したりしてみよう。
- この絵の場面で描かれたところはその後どうなったでしょうか？予想してみよう。
- 「タイムスリップ」の他のページと比較して時代の変化を説明しよう。

このような発展的活動によって、生徒自身が情報を活用して主体的に歴史を解釈する機会を持たせる。

別添の資料2は、この教科書で評価されている「歴史に挑戦」のページである*3。発展学習として位置づけられている。このページは、生徒たちが複数の情報を組み合わせて、推理、討論する活動のためのページである。また、内容は、日本列島と朝鮮半島との交流を前提とした教材である。

この教材における学習活動では、船が沈んだ年月を推理するとき、情報として用意された別の船の例を用いて推理する場合がある。そのときの論理として、当時の船の特徴から、「帆船」は、季節風を利用するので、四季のある朝鮮半島周辺では、毎年同じ頃、同じ

ルートをたどったと考える生徒がいる。それは、鋭い視点といえる。蒸気船のように風を必要としない動力が発明される以前の時代の航海は、自然の力（季節風）を利用していたこと、そのために交易の時期が限定されたこと。この理解は、現代の特徴を歴史的に捉える視座として重要である。社会科歴史学習は、単なる情報の活用技能だけでなく、現代を歴史的に特徴付けるための学習として位置づけられる学習である。この教材は、そのような学習としての価値もある。さらに、日韓の交流史としての視点からは、現代日本が歴史的にアジア諸地域との交流関係の中で形成されたことを学ぶ教材でもある。

4. 歴史教科書作成の前提条件

教科書が絶対の真理ではないという視点から、「批判的思考」は、歴史教科書作成の前提として重視される。「批判的思考」は、次のような認識である*4。

- 歴史家や歴史教科書の著者、ジャーナリスト、テレビ番組のプロデューサーが単に事実を報じているのではなく、入手可能な情報を解釈したり、出来事や経過を理解し説明するため、異なる諸事実の間で関係を見つけようとしていることを理解する。
- この過程をとおして、彼らが選んだ事実を証拠事実（つまり、何が起こったのかについて、ある特定の議論や解釈を支えるために利用される事実）へと変えているのだということを理解する。
- 視点の多様性がいかなる歴史的イベントにも存在すると認識する。

つまり、歴史学習をとおして、①歴史には「異なる証人の目」や「異なる国、異なる解釈から見えた出来事」が含まれること、②歴史家は真実をいくら調査しても絶対的な真実を提供できないことの二つを学ぶ。歴史学習において、最も基礎的な歴史学習は、歴史が「絶対的な真実」ではなく、人が「選んだ」情報から組み立てられた「解釈」であるとわかることであり、そのことを学ぶ教科書が必要と考えられている。

このような視点による問題解決モデルとして次の6段階の学習活動が前提になっている*5。これは、生徒を歴史家とみなし、歴史を解釈させるシミュレーションである。

- 1) いくつか複数の問題（疑問・謎）をさがす
- 2) 疑問を出し合いいろいろな事実を見つける
- 3) 自分たちが扱える問題を一つに絞る
- 4) 問題解決のためのアイデア（解釈）をいくつか出しあう
- 5) 解決方法（調査方法）や根拠（必要な情報や資料）を決定する

6) 決定した解決方法の実施計画を一つか二つ作る
(文章やイラスト, パネルなど説明の方法も含む)
帝国書院の教科書を例に説明すると, 資料1としてあげた『社会科中学生の歴史』タイムスリップ中世②の博多の想像図の場合, この絵の中から,

- 1) 自分が気になる場面・疑問に思う場面を3つ探し, マークする。どれが一番気になるか順位を付ける。
- 2) ペアかグループでどの場面にマークしたか, どこが一番気になるか, 説明しあう。
- 3) ペアもしくはグループで一番気になる場面を1つ選ぶ。
- 4) その場面の説明として, その時代にあり得る説明とその時代にはあり得ない説明の2つの説明を考える。
- 5) その2つの説明(解釈)を証明する根拠を考え, 発表する。
- 6) 2つの説を証明するための調査計画をペアもしくはグループで話し合い実施する。

以上のように, 教科書さえも一つの情報源と見なし, それを絶対視せずに解釈するという学習は, 歴史が, ある人々によって解釈され, 表現されていることを前提とした場合, 効果的学習と考えられ, 日本の教育実践研究において, 今後重視される傾向にある。

先の季節風の例のように, 過去の社会は, 現在と異なる常識があった。江戸時代は, 武士に特権があり, 死刑にした人の首が町に晒されるような現在と異なる社会だった。中世の人は, 地球が丸いことを知らず, 自然現象と人間社会をすべて星の動きと関係させて判断していた(=占っていた)。このように, 現在と異なる過去についての情報は, 自分自身とは異なる常識を持つ社会があったことに気づかせてくれる。それは, 異なる常識が対立を生みがちな現在の私たちに他者への豊かな対応力を与えてくれる。過去を解釈する作業は, 異なる常識の発見でもある。

そのために, ユニークなつまり, 他の生徒が気づかないような意見や解釈をあえて提案させる。教師が少数意見の役割をわざと演じることも, 異なる常識の発見という批判的思考を育てるために必要なときがある。

教科書が, それに対応するよう望む意見も多いが, 一方, 従来の授業スタイルを変革したくない教師たちからは, 敬遠される面もある。そのため, 教科書の全紙面が, 情報活用に対応した構成にはなっていない。しかし, 2008年の新しい学習指導要領は, 情報活用型の歴史学習を想定して改訂されたため, 現在, より情報活用型のコンセプトを明確化するよう改訂作業が進められている。

5. おわりに

資料3は, 大英博物館が小学生向けに作成したワークシートである*6。帆船の特徴に注目させるために帆の一部分を一筆書きで描かせている。また, 描かれた太陽は, 船がどの方向を向いて進んでいるかを示す情報でもある。星と太陽という天体を頼りに風を使って航海する歴史が不完全に描かれている。完成させるのは学習者の作業となる。このように, 学習者の能力に合わせて, 簡単な作業から次第にステップを高めていく学習カリキュラムと教材開発が必要であり, 日本においても開発が進められている。今回事例として取り上げた教科書の教材は, その一例である。このような教材は, 国際開発が可能であり, 今後, 思考力育成の視点つまり情報活用型の教科書を共同開発する国際プロジェクトが, 東アジアにおいて必要かつ可能性あるプロジェクトと考えられる*7。

*1 『社会科 中学生の歴史 初訂版』, 帝国書院, 2008, pp.64-65。日本で発行部数が最も多い教科書は, 東京書籍の教科書であり, 約50%のシェアがある。帝国書院版は, 約15%であるが, 発行部数の伸び率は最も高い。

なお, 土屋は, 執筆者としてこの教材の作成に携わっている。

*2 土屋武志「社会科授業における討論の重要性」, 『愛知教育大学教育実践総合センター紀要』第10号, 2007, pp.183-190

*3 前注1『社会科 中学生の歴史 初訂版』pp.80-81

*4 Huibert Crijns, History on the move in Europe-Challenges and Opportunities of a Complex School Subject. In *Textbook improvement with a view to enhancing mutual understanding between countries*. Seoul:Korean Educational Development Institute. 2002, pp.51-87

*5 Alison M.Sewell, Sue Fuller, Rosemary C.Murphy, Barbara H.Funnell, 2002, Creative Problem solving: A Means to Authentic and Purposeful Social Studies: *Social Studies*, Vol.93No.4, 176-179などを参照

*6 Ralph Jackson, Simon James and Emma Myers, "The Romans Activity Book", British Museum Press, P.5

*7 本稿は, 土屋武志・土屋敦子の共同研究にもとづき, 2008年10月23日に韓国公州大学校において開催された教科書に関する国際シンポジウム「International Symposium On The World School Textbook 2008」において土屋武志が口頭発表したものの一部である。また, 本稿は, 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(C)「思考力を育てる歴史学習教材の構成原理—構築主義による教材開発—」(課題番号18530694:研究代表者土屋武志)による研究成果の一部である。



タイムスリップ!

中世②〔15世紀〕(想像図)

中世の日本は海に開かれた時代でした。ここはアジアとの交流の窓口である港町です。海上には中国(明)や朝鮮の船が停泊しています。一方、町の大通りには、領主の一行とそれを出むかえる有力商人たちの姿が見られます。そして、市場にいるさまざまな人々のざわめき、中国語や朝鮮語が入りまじる話し声……人々のさまざまな生き方を覗いてみましょう。どのような人が何をしていますか。

① 絵のなかからさがしてみよう! ①

下にあげた港町を歩き来する人々は、この絵のなかのどこにさがされているか、さがしてみよう。また、P.68~69, 77を読んで、文脈と関連する人・ものをさがしてみよう。



- ① 中庭にある井戸のまわりで話をする女性たち
- ② 絹商し都市では大道具がさかんでした。
- ③ 領主の一行
- ④ 中国(明)からやって来た人

② 絵のなかからさがしてみよう! ②

この絵は、博多から発掘されたものや、この時代の絵巻物などを参考に、当時の人々のようすを想像してえがかれました。下の資料を参考にした場所や場面は、絵のなかのどこにえがかれているでしょうか。

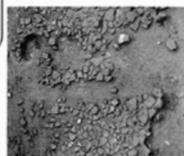


- ⑤ 市のようす (『一冊聖絵』 神奈川県 清浄光寺蔵)
- ⑥ かわらのぬ片をしいた講家道路 (都回市理 蔵文化財センター提供) サントリー美術館蔵)

この教科書のほかのページにも、この絵をえがくヒントとした資料がたくさんあります。さがしてみよう。
例) P.63⑥ 「琵琶法師」



⑦ 大原(のこぎり)を引く大工 (『三十二番職人歌合絵巻』 東京都)



⑧ かわらのぬ片をしいた講家道路 (都回市理 蔵文化財センター提供) サントリー美術館蔵)

歴史に挑戦!

沈没船のなぞを推理してみよう!

— 新安沖で見つかった沈没船 —

1976年、韓国の新安沖の海底で1世きの沈没船が発見されました。この沈没船は、長さ約28m、幅は約9mの木造船で、船室に陶磁器や古い銭を大量に積んでいました。その後8年かけて、水深20mの海底から引き上げられて調査されました。この船は、最近の海難記録にはのっていませんでした。かなり古い船で、長い間海底に沈んでいたと考えられます。

挑戦しよう!

- 沈没船について、次の点を推理してみよう
- ① いつごろ(年・時代)沈没したのだろう。
 - ② どこ(国)からどこ(国)へ向かっていたのだろう。
 - ③ 何を目的としていたのだろう。
- これらについてその理由もいえるようにしよう。できれば次のことまで、推理してみよう。
- ④ どうして沈没したのだろう。



① 沈没船が見つかった場所

情報1 沈没船から見つかったおもな遺物



- 銅でつくられた銭
中国の貨幣 約800万枚 (合計約28t)

中世の日本に使われた銅銭の多くは、中国の銭(宋銭・明銭)でした。中国の銭をもつていれば、日本だけでなくアジアのどこに行っても物を買うことができました。

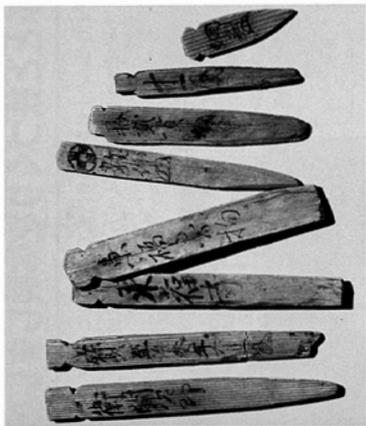
なぞ2 こんなに多くの銅銭が積み込まれたのはどうしてだろう。ヒント P.68のコラムを読んでみよう。

- かなり質のよい焼き物
中国(元)製の陶磁器 約2万点
高麗製の陶磁器 7点
日本製の陶磁器 4点

なぞ1 これらの陶磁器はどうしてこの船に積み込まれたのだろう。ヒント P.62のコラムを読んでみよう。



きちんとした理由も必要なのか。



情報2 中世の貿易

鎌倉時代の終わりごろから、寺を建てたり、再建したりするのに必要な資金を得るために、多くの貿易船が幕府の許可を得て中国や朝鮮へ向かいました。記録に残っているのは石の貿易船が最初です。この船は火事で焼けた鎌倉のお寺を再建するために派遣されました。

日本からは、東北地方でとれた砂金やそれを用いて京都でつくられた漆絵などの美術工芸品などが中国へ運ばれ、帰りにそれをもとに仕入れた中国産の品物が積みこまれました。

幕府は、このような貿易に許可をあたえ、御家人に護衛させて国内で安全に航海できるようにするかわりに、貿易商人から税としてお金を受け取りました。また、このような船で、日本の留学生が中国へ行き、中国の有名な僧が京都や鎌倉へやってきました。かれらは中国語を用いて通訳となり、外交や貿易で活躍しました。

木簡にある年は、記録されている船よりも古いです。日本の貿易船ではないのかも。



木簡に記された記録に残っていないのかもしれない。

なぞ3 中国製・高麗製・日本製の銭がこちらからは見えない。向かっていたのかを考えてみよう。



さらに詳しく読み解くために! 沈没船の航海を再現してみよう!

再現することによって、わからなかった部分が見えてくることがあります。まず、船が沈没した理由としてどんなことが考えられるでしょうか。意見を出し合ってみましょう。そうしたらうえで、船が荷物を積んで沈没するまでの物語をつくってみましょう。それは文章でも、紙芝居でも、劇でもかまいません。

- 木材 (紫檀・東南アジアに生育する木で、仏像をつくるのに用いられた高級な木) 約900本

- 木簡 (輸送される荷物につける荷札として用いられた) 364枚

沈没船から見つかった木簡には、文字が読みとれるものがあり、人の名(文七、八郎、まご三郎など)や、寺の名(東福寺、宮崎宮など)や年月日をしるしたもの(宝治3年...8月、6月3日...58枚、5月11日...37枚など)の数が多く、至治は中国の元号で、この年は西暦1323年をさします。東福寺は1243年に京都に建てられた禪宗の寺、宮崎宮は現在の福岡市にあります。

情報3 鎌倉時代に残る貿易船の記録

- 1325年7月 博多(現在の福岡市)を出发
- 9月 元(中国)に到着
- 1326年6月 元を出发
- 8月 高麗(朝鮮)を経由して博多にもどる



① 日本と中国の間で取り引きされたもの

Voyage by sea

The emperor has given Gaius command of a legion in Britain. He travels by sea from Rome to Gaul and marches north before crossing the Channel to Britain.

What sort of ship does he use? Join the dots to finish the picture.

